

幼児の 母



昭和十六年
四月

入園と親心

毎年の幼稚園入園に嬉しく想はれることはいろ／＼です。子ども達の喜び。先づの将来にまで及ぼす効果。しかも、かうした想ひの中にも、一番強く想はずにゐられないことは、我子を幼稚園に入れる親御さん方の親心です。

幼稚園は、今日義務教育になつてはあません。その必要は義務制にしたい迄に識者によつて考へられてはありますが、今はまだ、國民學校の入学のやうに國から命じられてゐることはありません。す

なはち、全く、わが子の爲によかれかしと念じ、いゝことは皆してやらうとする、周到な親心一つによつて行はれてゐることです。幼稚園の價値が如何に強く論じられ、又理窟の上でよく理解せられたにしても、この熱心な親心なしには、一人の子ども、幼稚園へは來させられないのです。國民學校入学の朝にも、かうした親心は充分感じられるのですが、幼稚園の入園では、却てそれ以上なものを感じられると言つていゝかも知れません。入園の子に、げにしみ／＼と想はれる親心かな、です。

× × × × × × × ×

幼稚園から

○御入園おめでたうございます。これから長い御懇意をいただきますのです。いろんなことを念いで申上げずともですが、今私達の心に強く二つのことがあります。お子さんと早くお親しくなりたいこと。お母さまと早くお親しくなりたいことです。○お子さんと親しくなれる爲には、早くお子さんを幼稚園へ獨り離して下さい。少し位お淋しさうでも、それでこそ私と仲よしにもおなりでせうか。○お母さまと御懇意になります爲には、送り迎への序に、一言でもお話の出来るやうにして下さい。御挨拶なんかして頂かうとするではありません。お子さんのことに就て、御遠慮のない御希望なり打ちあげたお話なり、私はつい忙しいのですから、どうぞ話しかけて下さるやうに願ひます。○お子さんは離れて、私には近くと、勝手に御座いますわね。